

# さぶりめんと

先進医療「大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術」 消化器内科 中村 剛之

この度当院で、先進医療の一つとして「大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（以下、大腸ESD）」が認可されました。

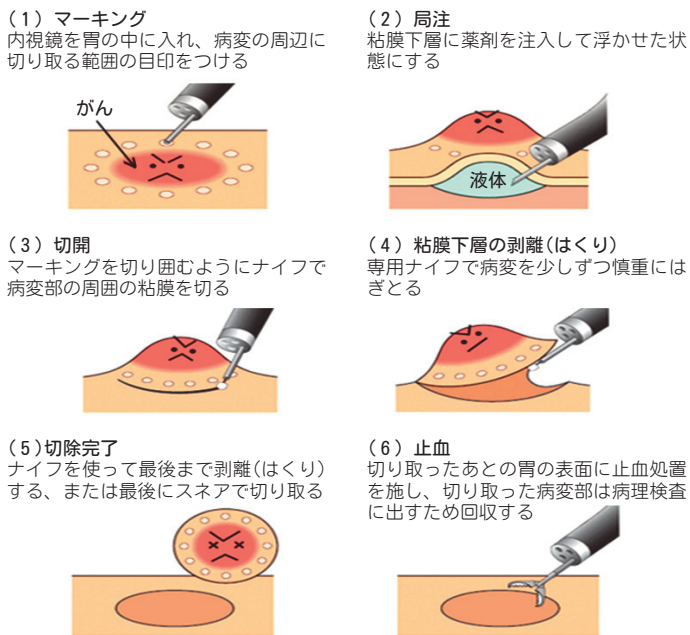
大腸腫瘍に対する内視鏡的治療として、内視鏡的粘膜切除術（EMR）（図1）が以前より盛んに施行されてきました。

図1 EMRの手技



粘膜下に局注 金属の輪を留置 輪を絞めながら焼灼 切除病変を回収

図2 ESDの手技



大腸内は凹凸やヒダが多いので、大きな病変をEMRで治療するとしばしば分割切除となっていました。分割切除になりますと、微小な取り残しから再発することが問題となります。そこで、胃腫瘍に対してH18年から保険適応となっていたESDの手技（図2）を大腸に応用することが考えられました。

大腸は胃と異なり、壁が非常に薄いため穴が開く危険性が高く、緊急開腹手術になることがあります。このような背景から大腸ESDは現在のところ一定の条件を満たした施設でのみ、先進医療として行うことができることとなっています。

大腸ESDでは大きな病変でも一括切除できるため、再発のリスクが低く、また病変の広がりや癌か否かの正確な診断が可能です。開腹手術に比べて体への負担は少なく、入院期間もおよそ半分の約1週間に短縮されます。

当院では大腸腫瘍の治療に際し、内科と外科で協議したうえで治療方法を決定し、チームで取り組んでおります。

ご不明な点は内科もしくは外科外来までお気軽にご相談ください。



## 理念

## 基本方針

●● 良質な医療を働く人々に、地域の人々に、そして世界の人々のために ●●

- ・私たちは、働く人々の健康確保のための医療活動、即ち「勤労者医療」の中核的役割を担ってこれを推進します。
- ・私たちは、急性期医療機関として良質で安全・高度な医療の提供を行うとともに、地域の諸機関と連携して地域医療の充実を図り「地域に生き、社会に応える病院」としての発展を目指します。
- ・私たちは、患者様の権利を尊重し、医療の質の向上ならびに患者サービスの充実に励み、「信頼され、親しまれる病院」作りを心がけます。
- ・私たちは、「開かれた皆様の病院」として、ボランティアや有志の方々の病院運営への参加・協力を歓迎します。
- ・私たちは、病院使命の効果的な実現のために「働き甲斐のある職場」作りを行い、運営の効率化と経営の合理化を推進します。



イメージキャラクター  
がれろっこ